

中井だより

中井やまゆり園

地域の豊かさ

地域支援課 地域連携・活動支援班 課長補佐 後藤 浩一郎

2016年7月、当園と同じ県立の障害者支援施設である津久井やまゆり園で起きた事件は、みなさんのご記憶にも深く刻まれているものと思います。私はこの3月までの5年数か月、事件後に住む場所を失った120余名の利用者の方の暮らす場所を用意するとともに、ご本人の望む暮らしを探る仕事をしてきました。

振り返れば、入所施設で働いていたのは四半世紀前。当時は、家から地域作業所に通うか、入所施設で暮らすかの二択しかない、いわゆる「家か施設か」の時代でした。

その頃に比べれば、今は地域のサービスが驚くほど拡充され、多様な暮らしができるようになってきました。「入所施設から地域へ」という考え方が主流になって15年以上が経ちました。主な活動場所であった地域作業所はその名称を変え、町中の至る所に事業所が開設されています。暮らしの場としてはグループホームが制度化され、今では施設に入所されている方の数を遥かに上回るようになりました。地域でできて入所施設でできないことがとても増えてきました。つまり、地域で暮らすことが当たり前になってきているのです。

4月に、久しぶりに入所施設に戻ってきました。ここには、当時と変わらない「入所施設ならではの良さ」みたいなものも残っていますが、一方で、時代に取り残されている部分も多くあると感じています。

これまで私は、勇気をもって入所施設から地域社会に一步を踏み出した、多くの人たちと出会ってきました。みなそれぞれに苦労はありますが、誰も「施設に戻りたい」とは言いません。そんな彼らのリアルな暮らしをみるに、地域は必ずしもパラダイスではないけれども、今の私たちの社会は、障害のある人たちとともに暮らしていくのに必要な豊かさは持ち合わせつつあるのだろう、と実感しています。

そんな地域社会との窓口として、微力ながらお手伝いできれば、と思っています。よろしくお願いいたします。

柿

地域支援課 発達障害支援班 課長補佐 荒木田 敬一

中井やまゆり園 地域支援課 発達障害支援班 発達障害支援センターかながわエースに、この4月から配属されました。中井やまゆり園の前は、子ども自立生活支援センターきらりに勤務していました。よろしくお願いいたします。

さて10月26日が柿の日だそうです。この時期になると個人的に思うことがあります。私の実家には、もう50年以上たつ柿の木が一本あります。毎年、実家からその木になった柿を送って来てくれていたのですが、ここ数年は送られてきません。実家の父が脳梗塞で倒れ一人暮らしが難しく、数年前から老人ホームに入所しているからです。それでも毎年、柿はなるものだと思っていたのですが、柿の実が若いうちに落ちてしまい、全然ならないのです。春から夏にかけてきちんと消毒をし、世話をしないといけないらしく、毎年父がやっていたんだということを知り、感謝の気持ちで一杯になったことがあります。この時期に柿を見ると思い出します。我が家では、当たり前毎年食べていた柿でしたが、今はスーパー等で買わないと食べられません。当たり前の日常のありがたさが身に染みる今日この頃です。まだ老人ホームの部屋への入室はかなわず、早くコロナが落ち着いて、父と一緒に柿を食べられる日が来ることを願っています。

中井やまゆり園でも“やまゆり祭”を開催することになり良かったなあと思います。一般公開はまだで家族のみの参加の予定ですが、新型コロナウイルス感染症も落ち着いて無事に開催出来ることを願っています。そして早くコロナ前の日常生活が戻ってくることを願わずにいられません。